第4回

駐日インドネシア大使による特別授業

タイ・カンボジア・インドネシア

“魅力を伝え合う” 3ヶ国の学生たちとの交流

第4回「新・文明の旅」プログラムは、開催を1年延期し、2021年4月から開講しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な蔓延により、留学や海外渡航に大きな制約が生じていますが、国立コンケン大学（タイ王国）、カンボジア健康科学大学（カンボジア王国）との包括協定を結び、「新・文明の旅」を履修している学生たちはインターネットを活用したオンライン交流や、国際郵便の活用によるEHAGAKI PROJECTなどに積極的に取り組んでいます。2022年3月に予定していたタイ王国、カンボジア王国、インドネシア共和国の3ヶ国への訪問は中止となりましたが、オンラインで3ヶ国の学生たちと世界が抱える社会問題について意見交換をしたり、日本からは和楽器演奏会を企画したり、お互いの国を紹介しあうような交流を継続して行い、それぞれの国について理解を深め合っています。このように現在の予測不可能な社会においても、第4回「新・文明の旅」は活発に授業が進められ、学生・教職員が一丸となって第5回「新・文明の旅」へつなぐため、2024年のゴールを目指して邁進しています。

学習プログラム

新・文明の旅特講a　2021年4月～8月

自立と共生の精神を国際的視座に立って深く養成するため、学生たちが多様な経験を通して一層成長の機会を得ることができます。また、タイ・カンボジア・インドネシアの国々の文化、宗教、民族性などについて学ぶとともに、それぞれの国が抱える社会的問題について理解を深めました。

【到達目標】

1. 3カ国の文化や民族性、日本との関係について説明することができる。
2. 3カ国が抱える社会課題について説明することができる。
3. 疑問に思ったことについて自ら調べ、それらを総合して個人あるいはチームで説明、発表ができる。

新・文明の旅特講b　2021年9月～2022年3月

訪問国が抱える社会問題について現状を知り、持続可能な未来に向かって自分たちができることについて考えること、それらについて3ヶ国の大学生へプレゼンテーションし、ディスカッションができるようにまとめること目標としています。

【到達目標】

1. 日本の歴史、文化、経済、ビジネス、社会課題等についての基礎的な知識を持ち、疑問に思うことは自ら調べ、それらを総合して個人あるいはチームで説明、発表することができる。
2. 東南アジアの国々が抱える社会課題について説明、発表することができる。
3. 持続可能な未来のために、自分たちができることについて考え、発表することができる。

スケジュール

2020

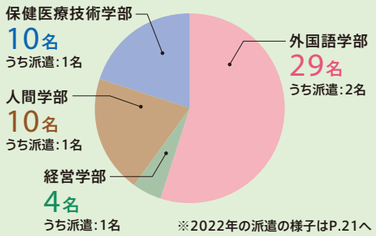
コロナ禍の影響により、プログラム（授業）が1年延期となる。履修学生を中心に訪問予定国の大学生たちと様々な交流をおこなう。

- 9月：宝生会夜能特別公演　和楽器演奏会：ウズベキスタン留学生を励ます会
- 10月：EHAGAKI PROJECT
- 11月：「和楽器の魅力を探る」第2回 ～邦楽囃子の響き～　実施報告

2021

- 3月：国立コンケン大学（タイ王国）との包括協定締結
- 4月：新・文明の旅 特講a
  - 「和楽器の魅力を探る」第3回 ～演奏会＆「新・文明の旅」OB・OG講話会～
- 7月：カンボジア健康科学大学（カンボジア王国）との交流協定締結
- 9月：新・文明の旅 特講b

参加学生数（全参加数：53名）



※2022年の派遣の様子はP.21へ

EHAGAKI PROJECT

コロナ禍によるオンライン疲れが見え隠れする状況下において、海外の協力校と本学学生との間で、敢えてオールドスクールなair mail による「文通」での交流を図りました。
多くの履修学生たちが、思い思いに選んできた絵葉書にメッセージを添え、かつて本学に留学生として共に学んだブルガリア、ウズベキスタン、カザフスタン各大学の学生達へEHAGAKIを送りました。
このプロジェクトを通して学生間で親近感を高め合い、オンライン交流の活性化へとつなげています。

「和楽器の魅力を探る」第2回 ～邦楽囃子の響き～

2020年11月29日午後、文京学院大学本郷キャンパスで、新・文明の旅 日本文化教育プログラム「和楽器の魅力を探る」第2回 ～邦楽囃子の響き～ が行われました。第1回で演奏を披露いただいた尺八奏者の津上弘道氏に、今回はコーディネーターをお務めいただき、同日昼前に「新・文明の旅」プレガイダンスを受けた学部生12名に、本学のアメリカ人チューターおよび関係者が加わり、総勢30名が生の演奏を体感しました。

邦楽囃子を体験

みんなで実際に演奏

「和楽器の魅力を探る」第3回 ～演奏会＆「新・文明の旅」OB・OG講話会～

2021年4月25日、文京学院大学本郷キャンパス仁愛ホールにて、第4回「新・文明の旅」プログラム「雅楽公演」「ＯＢ・ＯＧ講話会」が開催されました。第1回と第2回の「新・文明の旅」に参加したOB・OGの講話会では、「新・文明の旅」に参加した際の体験について、さらには卒業後その体験がどのように自らの生活に影響を与えたかについてお話しいただきました。

OB・OG講話会の様子

雅楽公演の様子

履修生の声!!

ただの講義形式ではないこのプログラム！大使館の方やジャーナリストの方々をお招きして交流国について様々な側面から学び、グループで自由にテーマを決めて調査し、協力してプレゼンするという実行型授業です。
自分で考え行動に移す「実行力」を育むことができます。

日本文化を学ぶことも、海外へ日本を発信するためには必要なこと。このプログラムでは、「伝統芸能鑑賞会」を学内で開催し、能や和楽器演奏を体感し、交流先大学へ日本文化のすばらしさを伝えられ、他の授業にはない貴重な体験ができました。有意義な時間とたくさんの知識を、他学年、学部生とともに学びあうことができます。

2022 Republic of Indonesia

コロナ禍により渡航できなかった2021年を経て、
1年間「新・文明の旅」プログラムを履修した学生の中から
選抜された5名がインドネシアを訪問。
現地大学生との交流や文化遺産の探訪などを実施しました。

■ 派遣プログラム

Indonesia インドネシア

ウダヤナ大学訪問

ウダヤナ大学では、日本語学科の学生と交流を深めてきました。文京生５名が自己紹介をした後で、日本の食文化や着物、アニメや若者音楽など、日本文化について紹介するプレゼンテーションをすると、流暢な日本語で多くの質問が寄せられました。特に日本のアニメが好きで日本語を学び始めた学生が多く、アニメの話では大いに盛り上がりました。
その後は、本プログラムの集大成として学生が考えた「本学で行える持続可能な未来に向けての取り組み」についてプレゼンテーションをしました。質疑応答の場面では学生同士で活発に意見交換を行うことができ、多くの気づきを得ることができました。最後のフリー時間では、本学より持参した着物を現地学生に着付けして和装を楽しんでもらったり、若者文化の話や記念撮影で大いに盛り上がり、あっという間に交流時間が過ぎてしまいました。現地学生からの歓迎を受け、とても充実した時間を過ごすことができました。

伝統舞踊ケチャダンス

現地学生の前でプレゼンテーション

インドネシア・プログラムの学び

学生たちは「持続可能な未来に向けてのエコライフ・スマートライフ」をテーマとしてバリ島のゴミ問題を中心に環境問題の現状と課題について学び、その解決策について考えました。社会起業家支援団体「アースカンパニー」による2回の講義とバリ島からの中継による3日間のオンライン研修を受講し、資源循環型キャンパス実現プロジェクトを提案しました。夏休みには代表学生がバリ島に渡航し，現地プログラムで学びを深めました。

アースカンパニー社会貢献活動を体験

バリ島ではアースカンパニーが運営する先進的エコホテルに滞在し、循環型の施設や技術について学びました。他にも環境団体「Sungai Watch」の河川清掃活動では海洋汚染の原因となっているプラスチックごみの回収作業を体験したり、最先端エコスクールの「グリーンスクール」にも訪問したりしました。グリーンスクールは、持続可能な世界を創る未来のリーダー育成を目的としており、竹で作られた壁がない校舎が立ち並ぶ循環型キャンパスで、生徒自身でプロジェクトを提案し、活動する体験型授業が展開される革新的な学校でした。文京生たちは環境問題の深刻さと、解決のための活動や教育を体験し、日々のエコライフ・スマートライフの実践を心に誓っていました。

河川清掃活動の様子

Republic of Indonesia 04

Interview

第4回 新・文明の旅
インドネシア
派遣選抜学生5名をインタビュー

バリでの経験で、環境問題がより身近にまた自分自身を知るきっかけになったこの旅を通した全ての出会いに感謝

Q 大学代表として渡航に選ばれた時はどんな気持ちでしたか。

A やっと自分が学んできたことや努力が実を結んだのだと嬉しい気持ちになりました。2年生の前期と後期を通してそれぞれの国に対する深い知識を学び、プレゼンや研究を通じて周りに自分たちが学んだことを伝える発信力などの技能を身に着け、絶対渡航メンバーに選ばれるんだという強い気持ちを持っていたからです。途中で履修をやめていく人が増えていく中で、あきらめずに続けてよかったと思っています。

外国語学部 3年　慶田元 裕佳さん

Q ウダヤナ大学ではどんなことをしましたか？学生交流はどうでしたか？

A まず、各自自己紹介を行いました。ウダヤナ大学の学生さんたちは私たちに沢山興味関心を持ってくだり、質問をたくさんしてくださったので、趣味や特技などで盛り上がりました。その後、今流行しているアニメや歌、俳優、日本の代表的な食べ物や服（浴衣、着物、振袖など）、家（畳やこたつ）など日本の紹介を行いました。また、今回の重要な目的であったBGUの環境プロジェクトの成果報告を行いました。プレゼンは全て日本語で行ったのですが、ウダヤナ大学の学生がどのレベルの日本語まで理解することができるのかわからなかったので、前日の夜までメンバーで修正を重ね、とても良い発表ができたと思います。発表が想像以上に盛り上がり、交流時間は少なくなってしまったのですが、日本からのお土産としてお菓子やキーホルダー、着物やBGUグッズなどをプレゼントしました。各々、かるたで遊んだり、キャラクターのポーズで写真を撮ったり、趣味の話をしたりと少ない時間でたくさん交流できました。私はお土産の着物を着付けしてあげたのですがすごく喜んでくれたことが嬉しくて印象に残っています。少ない時間でしたが、この交流を通してインドネシアに同年代の友達がたくさんできたことが嬉しかったです。

保健医療技術学部 3年　赤羽 琉愛さん

Q ウブドの川清掃で感じたことはありますか？

A 川を見て最初に思ったことは、人生の中で見た川の中で一番ゴミが多く、汚れていることでした。そしてゴミの多くがプラスチックで、土に埋もれてボロボロになり、引っ張ったら千切れてしまい捨てる事ができないゴミも多かったです。奥に進むにつれてゴミの量はさらに増えていき拾うのが難しくなっていきました。しかし、私たちがゴミ拾いをしたウブドの川はまだ綺麗な方らしく、その話を聞いて衝撃を受けました。

経営学部 1年　長谷川 瑠璃さん

Q Mana Earthly Paradiseではどんなことを学びましたか？

A 自然の中で生きることを学びました。自分が20年間どれほど便利で安全な環境で生きていたのかということを実感しました。雨水をろ過した水を使用すること、飲むことは初めてでしたし、生ゴミをコンポストとして再利用している点は自然の中で生きるを体験する内容でした。また、自然の音の中で生活をすることは、心が穏やかになりました。

人間学部 2年　中川 愛さん

Q インドネシア研修に参加して、どんなところが成長したと思いますか？

A 環境問題についてよりもっと身近に考えるようになりました。また自分自身を知るきっかけになりました。今回の旅はほぼ日本語を使いましたが、他の国に行って、他の国の文化を感じてその地域の人と会話すると言うことが心の底から好きなのだと実感しました。何よりこの旅を通した全ての出会いに感謝したいです。渡航メンバー、先生、現地の友達、皆が本当に大好きで、また皆ともしくは１人でもバリ島に行きたいです。多くのことを学びながら、自由に楽しく旅を終わらせました。本当にこの旅に参加することができてよかったです！！

外国語学部 2年　村上 由佳さん